

## ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<b>食物栄養科 准教授</b> <b>青木 慎悟 (あおき しんご)</b> <b>AOKI Shingo</b>
所属	食物栄養科
学位	修士 (食品栄養科学) (静岡県立大学)
資格・免許	管理栄養士
学歴・職歴	<p>&lt;学歴&gt;</p> <p>2009年 3月 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養学科 卒業 (学士 食品栄養科学)</p> <p>2011年 3月 静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科 食品栄養科学専攻 修士課程 修了 (修士 食品栄養科学)</p> <p>&lt;職歴&gt;</p> <p>2011年 3月 独立行政法人 国立病院機構 三重中央医療センター (2012年3月まで)</p> <p>2012年 4月 山梨学院短期大学 食物栄養科 助教 (2013年3月まで)</p> <p>2013年 4月 山梨学院短期大学 食物栄養科 専任講師 (2023年3月まで)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学 食物栄養科 准教授 (現在に至る)</p>
担当科目	臨床栄養学総論 臨床栄養学各論 臨床栄養学実習 公衆衛生学各論 栄養生理学実験 給食運営実習III 子どもの食と栄養
専門分野	臨床栄養学
現在の研究テーマ	「ヘルスリテラシー」に着目した包括的な食支援
競争的資金等の研究課題	—
所属学会	日本病態栄養学会 日本栄養改善学会 日本食育学会
メッセージ	エビングハウスの忘却曲線によると、人は一度覚えたことも、全く復習しないと1週間で7割以上も忘れてしまうそうです。学びを授業中だけに留めずに、短期大学の2年間、学んだことの復習と実践を繰り返しながら、どんどんと力を付けていってください。継続こそ、あなたの力になります。
教育	2022年4月～2023年3月
教育方針	日々の学修と研究活動の支援を通じて、「学びの楽しさと奥深さ」を伝えることで、卒業後も、知識のブラッシュアップと実践を繰り返しながら、問題解決に取り組むことのできる人材を養成する。

教育 (つづき)		
2022年4月～2023年3月 (つづき)		
授業	授業の工夫	<臨床栄養学総論> 「栄養ケア・マネジメント」を実践的な取組の中で学修するための、アクティブ・ラーニング (AL) を行っている。具体的には、BDHQ (食習慣をアセスメントする食事調査法の一つ) を指導対象者に回答してもらい、その結果をふまえ、栄養ケアの流れを立案、プレゼンテーションの形で相互発表させる授業を実施している。 <臨床栄養学各論> 人間栄養学に対する科学的な視点を強化させるため、データベース『健康食品』の安全性・有効性情報」を用いた AL を行っている。具体的には、データベースを用いて興味のある成分の科学的な機能性（ヒトを対象にどのような研究が行われているか）を調べさせ、プレゼンテーションの形で相互発表させる授業を実施している。 <栄養生理学実験> 一部実験において、実験計画を全て教員側が提示するのではなく、学生には実験材料を提示するにとどめ、班ごとに実験計画を考えさせ、その計画を元に実験を実施し、結果を発表させる回を設けている。さらに、研究的な視点も含めて、羽畠祐吾食物栄養科長と共に、ループリックを用いたレポート指導法の検討を行っている。 <公衆衛生学各論> AL の一つとして、ストレスチェックや食習慣等のデータを用いて、公衆衛生学的な視点から集団全体の特徴や課題を分析し、相互発表させる授業を実施している。 <子どもの食と栄養> 食と栄養、特に「食育」に関する理解を深めるため、複数の ALを取り入れている。具体的には、食事調査結果から、自身の食の特徴を検討させる課題や、「食育推進基本計画」の目標値を改善させるための食育活動計画を立案させ、相互発表させる授業を実施している。
		・授業改善アンケートによる教授内容の見直しを継続的に行っている。 ・各種研修会に参加し、専門の栄養学的な部分だけでなく、オンラインにおける効果的な教育手法の学修にも努めた。
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	・2022年度は、ゼミ所属の8名全員で、フレイルと食をテーマとした研究活動を行った。 ・得られたデータを分析する中で、学生らが基礎的な統計手法 (t検定、カイ二乗検定、相関分析など) を習得できるように努めた。 ・「山梨学院短期大学 公開講座 (2022年11月)」や「山梨県立笛吹高等学校 食品化学科プロジェクト発表会 (2022年12月)」における、学生らの発表に向けた支援を行った。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	・超高齢社会における栄養士の役割について～フレイル予防教室の実施とフレイルに関する横断研究よりみえたもの～(共同)

教育 (つづき)				
2022年4月～2023年3月 (つづき)				
課外活動	• フォークソング拓郎 顧問			
2022年3月以前				
主な教育業績	指導学生が以下の学会にて、示説発表を行った。 第5回 山梨県栄養学術研究会（2021年3月） 第4回 山梨県栄養学術研究会（2020年2月） 第2回 山梨県栄養学術研究会（2018年2月） 第1回 山梨県栄養学術研究会（2017年2月）			
研究				
2022年4月～2023年3月				
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等		
(その他：短報) 介護保険施設から医療機関に発行する栄養情報提供書の有用性 (共著)	2023年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第43号		
(その他：学会発表) 山梨県内の高齢者におけるフレイルと食の多様性との関連～フレイルに関する横断調査および公開講座の実施～ (共著)	2023年 2月	第7回 山梨県栄養学術研究会		
(その他：学会発表) 山梨県の介護保険施設における栄養情報提供書の実態調査 (共著)	2023年 2月	第7回 山梨県栄養学術研究会		
(その他：学会発表) 女子大学生におけるヘルスリテラシーと習慣的な野菜・果物摂取量との関連 (共著)	2022年 6月	第10回 日本食育学会 学術大会		

研究 (つづき)		
2022年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) <a href="#"><u>小児1型糖尿病サマーキャンプにおける身体活動量調査</u></a> (単著) <外部リンクあり>	2018年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第38号
(学術論文) <a href="#"><u>「食品衛生学実験」の衛生管理項目に対する学生の意識調査と教育効果</u></a> (共著) <外部リンクあり>	2018年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第38号
(その他: 短報) <a href="#"><u>サマーキャンプ中の1型糖尿病患児の正確な血糖予測に関する因子の検討</u></a> (単著) <外部リンクあり>	2020年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第40号
(その他: 資料) <a href="#"><u>山梨県栄養士会ウェブサイトのアクセス状況とサイト改善の取組</u></a> (単著) <外部リンクあり>	2021年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41号
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2022年4月～2023年3月		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまびこの会（山梨県における小児1型糖尿病サマーキャンプ運営スタッフの会）栄養スタッフ学生引率（2012年4月～現在に至る）</li> <li>・公益社団法人 山梨県栄養士会 ウェブサイト管理者（2018年4月～現在に至る）</li> <li>・山梨県栄養士会 甲府市支部 調理動画編集（2023年3月）</li> <li>・民間保育士等キャリアアップ研修「食育・アレルギー対応（1日目）」講師（2023年1月）</li> <li>・山梨県栄養士会 生涯教育研修会 講師（2022年12月）</li> <li>・山梨学院高等学校 高大連携事業 講師（2022年12月, 2022年2月）</li> <li>・山梨小児糖尿病ミニキャンプ やまびこの会 栄養スタッフ（2022年9月）</li> <li>・山梨学院短期大学 公開講座（第9回） 講師（2022年11月）</li> <li>・山梨学院短期大学 中学生オープンキャンパス 講師（2022年10月）</li> </ul>		
2022年3月以前 (主なもの)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益社団法人山梨県栄養士会 中北支部支部長兼山梨県栄養士会理事（2016～2017年度）</li> </ul>		
受賞 ※個人、所属団体		
・農林水産省 第3回食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞」（2019年6月）		